

といえる。同じ千里ニュータウン地区の都市公園にある牛ヶ首池(千里南公園内)及び菩提池(佐竹公園内)には水生植物は1種も確認されなかった。これは蓮間池はコンクリートによる護岸が少ないのに対し、あとの2池は人が安全に池を一周できる「親水公園」として整備し、池の全周にわたってコンクリートで固め、水生植物を排除したためと考えられている。さらに牛ヶ首池は釣りやボートが楽しめる池となっており、水生植物は邪魔者となっている。都市公園内の池は、水生植物が生育していても景観の点から重要であることに間違いはないが、蓮間池のような現に水生植物が生育している池まで、都市公園的な親水機能(湖周歩道を整備し、ボートを浮かべ、子供が裸足で水遊びできる)を求めて公園整備することは、貴重な自然を破壊していることに他ならない。

<高町池> この池にはヨシ、キショウブ、ヒメガマ、ヒシ、スイレン、クロモ、オオカナダモ、ホザキノフサモの8種が記録された。周辺は木々に囲まれており、自然を生かした公園となっている。そのため、水鳥のパンを始め、シジュウカラ、モズ等の鳥類を見ることができ。また、休日はヘラブナ釣りの人で賑わっている。この池で特筆すべきことは沈水植物の種数が吹田で最も多いことである。クロモ、ホザキノフサモは吹田ではこの池のみで記録された。ホザキノフサモは一年を通じて生育するため、冬季に水を抜くため池では生育できない種である。そのため、池の管理方法によっては吹田唯一のホザキノフサモ群落を絶滅させてしまうおそれがあり、保全上留意すべきである。

<海老池> ここではヨシ、ヒメガマ、ヒシ、ホテイア

オイ、オオカナダモ、ハゴロモモ(フサジュンサイ)の6種が記録された。千里ニュータウン造成時に計画的に残された千里緑地内にある。竹林に囲まれており、人が池に近づくことは一部分を除いて困難である。そのため人目に付かないこの池はその存在を忘れられているようにも思える。しかし、岸辺に立つと、数十年前の千里丘陵のありふれたため池の風景を感じることができる。植生はホテイアオイ、オオカナダモ、ハゴロモモといった帰化植物の池であり、植物学的には人為的攪乱のある池ということになるが、吹田のため池の現状を考えると、決して保全する価値のない池とは言えないと思われる。なぜなら、ヨシが岸辺を囲み、沈水植物が波に揺れ、静かにコサギがヒシの葉の上で小鱼を捕るといった昔ながらのため池の風景そのものが、今や貴重となってしまった現状があるからである。

#### 文 献

- 角野康郎(1984)兵庫県東播磨地方における溜池の水生植物。植物地理・分類研究 32: 127-135。  
 角野康郎(1992)兵庫県におけるため池の水生植物の現況 1. 明石市, 水草研究会会報, 53: 1-7  
 奥田重俊・佐々木寧編(1996)河川環境と水生植物—植生の保全と管理—ソフトサイエンス社  
 滋賀の理科教材研究委員会(1989)滋賀の水草・図解ハンドブック。新学社  
 碓井信久(1985)神戸の水生植物(神戸の自然14)。神戸市立教育研究所

○黒沢湿原植物研究会編『黒沢湿原植物群落調査報告書』(徳島県池田町教育委員会発行, 平成8年3月, A4版 135p)

徳島県池田町の標高500mの地に位置する黒沢湿原は長さ2kmほどの湿地である。「サギソウが咲く湿原」として有名とのことだが、心無い人たちの乱獲によってさまざまな湿生植物が激減しているという。このほど現状の確認と保護対策を考えるための学術調査が行われた。本書はその報告書である。

はじめに植物相のリストがあるが、生態学者が調査メンバーの中心となったことから、植生とその動態、花粉分析などの報告が詳しい。とくに植生動態の調査は微地

形と各植物の分布の詳細な解析や埋土種子調査などを含むもので、この種の報告書としてはなかなか充実したものになっている。最後に保護に関して各委員の意見とその総括がある。(角野康郎)